

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和4年度 第1回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)		参画協働課		
開催日時		令和4年5月27日(金) 午後7時から午後8時半		
開催場所		川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、西原千佳子、久保田啓子、細見美咲、石伏淳子、大西僚、京極光泰、名畑龍史、丸谷満、		
	その他	市民活動センター(男女共同参画センター):指定管理者 三井ハルコセンター長、吉尾豊スタッフ		
	事務局	石田総合政策部長、金淵総合政策部副部長(広報・参画担当)、岸本参画協働課長、山元同課課長補佐、長見同課主任		
傍聴の可否		可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 事 (1) 川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査 について 3 閉 会		

19:00～

1 開会

事務局

事務局進行

事務局職員を紹介。

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条の規定により、本会議は公開となる。
なお、本日は委員が3名欠席との連絡をもらっている。出席委員は、定数13名中10名。

本日は、川西市市民活動センター長である三井ハルコ様、市民活動担当スタッフの吉尾豊様が、オブザーバーとして、出席。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

岩崎会長

会長挨拶

本日の出席委員は、定数の過半数に達しており、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第7条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している。
それでは、議事に入る前に、事務局から資料について簡単に説明をお願いしたい。

事務局

本日使用する資料は、

資料1：第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画の策定について

資料2：川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査について

資料3：川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査票(案)

また、本日机上に市民活動センターからの情報提供として、チラシを3部お配りしている。

2 議事 (1) 川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査について

岩崎会長

それでは、次第の「2 議事(1)川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査」について事務局より説明をお願いする。

事務局

第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画の策定に向けた取り組みの1つとして、市民アンケートを実施する。

資料1に基づき説明

資料2に基づき説明

資料3に基づき説明

こちらは、市民の皆様へ回答をお願いする調査票である。

質問のところに 印をつけている。これは、一定前回の質問との比較も必要かと考え、前回と同様の質問になっている。質問は、同じだが回答の選択肢を変えているところもある。前回、質問数が属性を除くと34問あったが、回答者の負担を減らしたいと考え、今回は質問数を19問にしている。

岩崎会長

質問は、変化を見るための同じ質問と次期推進計画策定に向けて、自発的な活動を展開するために市ができる（知りたい）項目の2つに大きく分かれる。

それでは、事務局から説明のとおり、市民アンケート調査について意見や質問をお願いする。

京極委員

前回の回収率はどれくらいか。回収率が悪かったから質問減らしたのか。2000人は妥当かどうか。

事務局

前回の回収率は46.7%である。2000人中200人でも統計的には有意である。

細見委員

前回の回答の年齢分布はどうだったのか。ターゲットを絞っても良いのではないか。

事務局

回答者の年齢構成は、60歳代20%、70歳代19.3%、40歳代18%、50歳代14.8%、10歳代、80歳代は、一桁である。

岩崎会長

これからを考えるとターゲットを絞りたいが、市が実施するアンケートでターゲットを絞り込んだものは実施が難しい。属性の項目があるのでクロスして、そこで整理したい狙い。

細見委員

この先を担う世代へのアンケートが大切だと思う。

名畑委員

送付時の年齢分布はどうか。送付時点での年齢の偏りがあれば、回答数の年齢分布は不確定ではないか。送付分と回答分の年齢分布を比較するなど対処が必要だと思う。

京極委員

オンラインによる回収は前回も行ったのか。

事務局

行っていない。今回が初めてとなる。

石伏委員

事前告知をする予定はあるのか。

事務局

ホームページやフェイスブックは検討している。

石伏委員

特殊詐欺等もあるので、安心感のためには事前告知をして実施することが大切だと思う。アンケートに市長の顔写真がついていれば良いかもしれない。

岩崎会長

封筒はどのようなものを使うのか

事務局

封かん機に通すために茶封筒を使用する。封筒には参画協働課とは記載する。

岩崎会長

この先を担う若者の回答を引き出したいが、問1～8で何かご意見はあるか。次の推進計画策定に活用したい

丸谷委員

16歳以上が対象だが、若者の回答を引き出したいのであれば、16歳にこの問いは重いし、イメージしづらい。活動とは整備なのか工事なのか等分らない。

また、いきなり自治会及びコミュニティ組織についての設問は若者には重いと思う。補足説明が必要ではないか。

アンケート内容を年齢で分けることができるのであれば、望ましい。

事務局

確かに大人向けの内容であるという側面はある。アンケートを分けることができれば良いが時間もないので、今回はそのまま進めたい。総合計画のアンケート等では別途調査があるので、そのあたりの意見を取り入れることで対応したい。

岩崎会長

問4 くらいからは答えやすい質問だと思うので、何とか最後まで回答してほしい。

丸谷委員

吹き出しのイラストの割に設問が固い印象。柔らかさと硬さがうまく融合されれば良い。

市の別のアンケートで以前「川西市の何を知っていますか？」という質問があったのだが、イチジク等思いついたものを答えやすかった。若者に答えてほしいならば、引き出しやすさが重要だと思う。

事務局

順番を入れ替えるのはどうか。

細見委員

地域の何を知りたくてこのアンケートをとるのが書いてあれば、より良いのでは。地域の治安なのか、交通なのか。答えづらい印象。小学校区と言われても子どもがいない人には分かりづらい。

具体的なイベントを出したりすると答えやすいのではないか。今、実施されている活動を知っている前提のアンケートになっている印象。活動をしていない人にはわからないので、もったいない。やはり、具体例があるとより答えやすい。

岩崎会長

活動をアンケートで知ってもらいたいと言う狙いもある。ただ、知ってもらいたいと熱意が強くなるほど、内容もどんどん増えてしまい、設問がふえてしまう。

どこを着地点とするか、簡単に知りたい項目だけにするのは難しい。

田中委員

(3) 自発的な活動とあるが、何をここで聞きたいのか分からない。自分では思っていないなくても人やまちのための活動もあるだろうし、重要な項目だと思うが、(1)(2)のプロセスをみたいものなのか。それとも新しく何かを知りたいのか、良く分からない。

事務局

オーソドックスな活動ではなく、新しいことをしようという動きが出ていると感じている。新しく立ち上げた活動などもあると思う。潜在意識に火をつけるために

はどうしたらよいかを知りたい。

田中委員

新しい取り組みを支援したいという考えなのか。

事務局

支援も含め、新しいかたちの市民活動はどのようなものかを掘り下げたい。

岩崎会長

意図は理解できるが、スタートアップをする人がアンケート対象者にそんなにいないのではないかと感じるが。

事務局

多くはないと思うが少数でもいるのであれば、そのような人を支えていくための参考にしたい。

細見委員

最初のカテゴリーで掘り起こすことができているならば、この流れでも答えやすいと感じる。

田中委員

自治会や NPO は組織であるが、ボランティアは志なので組織ではない。パーソナルな活動の話だと思ってよいのか分からない。

PTA の役員を募集しても人は集わないが、その日 1 日だけ、人のための活動となると言うと 50 人も人が集うと言う話も聞いたことがある。

細見委員

自治会の加入が自発的な活動になるのか。自治会に入るという選択も自発的とするのなら、自発的の範囲が分かりにくい。

丸谷委員

自発的という言葉が難しく感じる。何かに属することが活動ではなく清掃等個人的な参加も対象であり、それもまちづくりの 1 つであると分かるようにすると答えやすい。

岩崎会長

組織に拘らず、自分がやりたいことをやる。やったことありますかと言う聞き方が良いのか。

丸谷委員

そう書いてしまうと、市が回答を望む活動範囲外の回答も含まれてしまう恐れがあ

る。ただ、範囲を広げた方がおもしろい回答も含まれるように思う。

岩崎会長

多様性があるのは何よりだと思う。組織がなくても活動があると言うのが把握できるのは良いと思う。

名畑委員

団体や既設のグループにとらわれない事例を書いてほしい。

問16の質問の意図が分かりにくい。選択肢の4は報酬がもらえればではなく、活動資金が適しているのではないか。活動を始動する際に最低限のお金に困っていることもある。報酬ではなく、立ち上げ資金的なものが望まれるのではないか。

問8、12のようなテイストの質問がここにきても良いのではないかと思う。広報的な支援にも最初は困る部分もある。

岩崎会長

(3)がチャレンジ要素の強い質問がゆえ、回答に混乱するようには感じる。問8、12のような選択肢を用いることで、(1)(2)のカテゴリーと比較した答えを得るのもおもしろい。そのためには(3)の意図が伝わるようにしなければいけない。

西原委員

多田地区福祉委員で子ども食堂を始めるにあたり、きっかけづくりが大切だと感じた。興味を持ってもらえる発信が大切。

それには、やはり文字だけだと伝わりづらい部分がある。文字と絵のバランスが大切だと思う。読みたいと思わせる紙面づくりを大切にしている。地域の特色に合わせた色が加わればよい。福祉委員に入りたいと思ってもらうにはまず、自分たちが楽しむことが大切なので、自分たちが楽しめる取り組みをするように努めている。

大西委員

(3)人やまちのために活動とあるが、自分はNPOはやりたくてやっているという感覚を持っている。自分の活動が結果として市のためになっていると言うのであれば分かるが、人やまちのためにやっているわけではない。

このような前置きであるなら、自分はNOと答えると思う。やりたいことは何ですか？くらいの方が分かりやすいように思う。

岩崎会長

(3)についてはたくさんのご意見が出ているが、(1)(2)については概ねこのような質問で良いか。

丸谷委員

問3の隣人と友人・知人を分けている意図はあるのか。

事務局

ご近所付き合いでの情報入手なのか、知人・友人経由なのかを分けてほしいという意図がある。

細見委員

(2) 問11の 問13へだけの記載だと表現が分かりにくいかもしれない。
問13だけ答えて、そこで回答が終わってしまうかもしれないので、問13以降を回答するように促すほうが良いかもしれない。

岩崎会長

(4) についてはなにかあるか。

三井氏

市民活動センターは川西全域が対象となるが、そのすべてのニーズにこたえられているかどうか…。(3) 潜在するニーズへのアプローチを試みたいところではあるが、この選択肢だけで伝わるだろうか。

岩崎会長

市民活動センターの説明を増やすべきかもしれない。

細見委員

実際の活動を羅列して、知っているものに○を付けて下さいの方が分かりやすい。答えの選択肢が抽象的な気がする。その解答を選んでどうなるのか、選択肢で施策につながる答えが得られるのか疑問。具体的な活動を出してもらえた方が分かりやすい。

三井氏

ボランティアとNPOを並列するのが適切かどうか…。ボランティア活動センターのことは聞かなくて良いのか

事務局

前回のアンケートが難しい質問だったため、参画と協働の認識を深めるために簡素化した部分がある。市民活動センターの認知度が北部地域では低いように思い、このような設問にした。

ただ、本当は知っているのに知らないと答えられてしまう恐れがあるので、修正を検討してもよいかもしれない。

岩崎会長

ボランティア活動センターは書かなくて良いのか。

事務局

領域外と言うこともあるので、省いている経緯がある。

田中委員

問17「市政に参画する」という言葉が難しく感じる。また、問18「地域づくり一括交付金」という言葉は16歳以上を対象にするのであれば、答えにくいのではないか。圧倒的に知らないという答えが多くなると感じる。

事務局

一括交付金という言葉自体が難しいと捉えたら良いのか。それとも質問する事自体が難しいと言うことなのか。

田中委員

アンケートで得ようとしている目的によると感じる。

事務局

(4)の3つの設問には施策・施設運営をしていることが、本当に伝わっているのか知りたいと言うのがこの設問。市として伝えきれているのか、地域づくり一括交付金も市民に伝わっているのか。認知度を図るだけではない。

市民に伝えていくことも使命だと考えているので、このような設問としている。

岩崎会長

(3)組織に属さない、自発的に楽しくやっていることを聞くような問いにしなければいけないが、どうすれば良いと思うか。

田中委員

(3)は本当にチャレンジな取り組みだと思し、前向きな設問だと思う。自己実現の活動が増えてきているが、そのような方にこそ答えてほしい。大西さんがYESといえるような設問にするはどうしたら良いのか。

大西委員

やりたいことを聞くことが一番いいのではないか。

岩崎会長

この秋、ワーカーズコレクティブが始まる。法人格をとれるようになるので、そのような方も自発的な活動でコミュニティビジネスにつながっていく。

それがここでとりあげられたら、良いのだが。

細見委員

問1 2も聞き方次第では回答が変わる質問だと感じる。

丸谷委員

参加していないのはなぜと問われるのは後ろ向きな感じがして、答えにくいように感じる。(3)(4)この順番で聞くことに違和感がある。(4)は組織的なものを感じる。お金がらみの質問が(4)にくるのが分かりにくい。支援しているものは支援しているものでまとめる。それ以外とするなら、(3)(4)逆が良い。

ただ、逆にすると最後まで答えてくれないリスクがあり(3)を答えてもらえない可能性あり。

京極委員

アンケート回収の〆切はいつになるのか。先になればなるほど、答えなくなる。届いてすぐの方が答える。回答期間は、2週間程度が良いのかと思う。オンラインの活用では、スマートフォンベースのレイアウト確認が必要。

事務局

週末前にアンケートを発送し、週末を2回挟み月曜日を〆切とする。その間、回答へのお礼とまだ回答されていない方へ再度回答を依頼する。

岩崎会長

今日の意見を事務局で整理。会長、田中副会長と事務局で整理していく方向にしたい。

3 閉 会

事務局

修正等会長、副会長と調整させていただきながら、発送の準備を進めていきたい。次回の推進会議は、市民アンケートの結果等をご報告させていただきたく、9月開催を予定している。

(終了)